## 第4次プラン重点目標等(3案)の特徴

※ 以下、重点目標を「大柱」、施策の基本方向を「中柱」と表記する。

## 【三室の比較】

【三案の		A案	B案	C案
			27/	1/27 部会意見を踏まえ、目標達
基本的考え方			   国 4 次計画の構成にこだわら	成のためには「意識改革」を含
		   国4次計画をベースに作成	ず、県3次プランの構成をふま	めた「基盤整備」が必要という
			えるなど、別の視点から作成	観点から組みなおし。更に「新
			7 C C ( )31 -> D B ( ( ) > D   )	しい生き方」をイメージ
		   「あらゆる分野の女性活躍」な	大柱は「男女」とし、中柱は個	(B案と同じ)
	表記	ど、女性に対する取組の柱は	別に「女性」「男性」と区別し	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \
	2412	「女性」と表記する。	て表記する	
		原則として国4次計画の柱の表	大柱は、基本法に基づき男女共	(B案と同じ)
		記と合わせる	同参画を示すメッセージとして	(=)(=)
			「男女」と表記。	
			中柱は、女性と男性、それぞれ	
柱の			の参画が弱い分野についてター	
表現			   ゲットを明確化することで、男	
	考え方		女共同参画の推進について、よ	
			り具体的な施策の方向性を示す	
		※ 他県では、全て「男女	」と表記したり、性別を表記しなか	ったり、色々なパ
		ターンがある		
大柱「あらゆる分		大柱1 あらゆる分野における	大柱1 あらゆる分野における	(B案と同じ)
野」の考え方		女性の活躍	男女共同参画	
			大柱2 職業生活の充実とワー	
			<u>ク・ライフ・バランス</u>	
			<u>の促進</u>	
		⇒職業生活に特化せず、男女の	⇒ 女活法等の社会的背景を踏	
		あらゆる分野の活躍や、多様	まえ、「あらゆる分野(職業生	
		な生き方のための計画である	活以外)」と「職業生活・WL	
		ことを表現する	B」とに分ける	
			⇒ 職業生活(働き方改革) と	
			WLBは表裏を成し、一体で取	
			組むべき重要目標であるため、	
			引き続き大柱として併記する	

大柱「安心な暮らし」の考え方	大柱2 男女共同参画の面から 見た健やかで安心な暮 らし	大柱3 人権に配慮した健やか で安心な暮らし	大柱3 男女共同参画の面から 見た健やかで安心な暮 らし
	⇒ 女性に対する暴力、困難、 健康などの課題に取組むことに より、女性の「安心な暮らし」 を守ることをメッセージとして 表現する ⇒ 国4次計画の「安全・安心	⇒ 暴力、困難、健康などの課題を「基本的な人権」ととらえ、第3次プランに引き続き、人権を守ることの重要性を、基本理念に加え、大柱にも入れることで、強くメッセージとして表現する	⇒ 暴力、困難、健康などの課題に取組むことにより、「安心な暮らし」を守ることをメッセージとして表現する ⇒ 国4次計画の「安全・安心な暮らしの実現」)を参考
	な暮らしの実現」)を参考 に、「安心」「暮らし」をワ ードとして盛り込む	(※第3次プランの重点目標4 「異性に対する暴力の根絶と <u>人</u> 権の尊重」)	に、「安心」「暮らし」をワ ードとして盛り込む
大柱「基盤整備」 や「意識啓発(意 識改革)」の考え 方	大柱3 男女共同参画社会実現 に向けた基盤整備	大柱4 男女共同参画意識の醸 成	大柱4 男女共同参画社会の実 現に向けた意識改革と 基盤整備
	⇒ 全ての施策の基礎として、 育児・介護をはじめとする環 境整備が重要であることをメ ッセージとして表現する	<ul><li>⇒ 全ての施策の基礎として、</li><li>意識啓発が重要であることをメッセージとして表現する</li><li>⇒ 県3次プランにおいては</li></ul>	⇒ 「基盤整備」と「意識啓発」があって、各施策(人権、安全・安心など)に取組むということから、共に重要であることをメッセージとして表現する
	⇒ 国の4次計画の「男女共同 参画社会の実現に向けた基盤の 整備」を参考に、「基盤整備」 をワードとして盛り込む	「意識啓発」を中柱として位置 づけていたことを踏まえ、4次 では更に重点化し、大柱として 重点目標であることを表現する	
大柱「推進体制」の考え方	大柱4 推進体制の整備・強化	大柱5 推進体制の整備・強化	大柱5 推進体制の整備・強化
**************************************	⇒ 3次プランにおいては、柱 (重点目標と施策の基本方向) でなく本文 (P44「推進体制と進 行管理等」)に推進体制を記述 していたが、国の4次計画で 「推進体制の整備・強化」が大 柱に位置づけられたことを参考 にし、大柱とした	(A案と同じ)	(A案と同じ)
	⇒ 推進体制は手段であるが、 手段も施策であることを明確化 するため、大柱とした		